

雪冠り凜々しき富士を車窓より

松浦武子

梅ヶ香や一期一会の出会い有り

西本俊子

勤め人足早にゆく毛のブーツ

久貝貞子

菜の花が裾野彩る比良雪山

塩田亘子

山肌を焦がす炎や奈良の春

塩田亘子

里山の路傍の池に厚氷

松浦武子

紅梅の堅きつぼみや春を待つ

飯田昭子

水餅や乾燥肌のかゆきこと

浅香さとみ

灰色の重き雪ぐも北の果て

塩田亘子

凍て空を突き刺す様にスカイツリー  
松浦武子

日脚のぶ今日大切に生きたしと  
西本俊子

肌を刺す煌き厳し寒の月  
飯田昭子

一碗のくず湯安眠さそうかな  
西本俊子

福豆のあらぬ方へと飛びゆけり  
浅香さとみ

スカーフの結び色々寒き朝  
久貝貞子

早咲きの菜の花つみて香りたつ  
飯田昭子

色紙絵を豆雛に替へ客迎ふ  
西本俊子

深々と冷え込む庭の赤き花  
塩田豆子

稿正の孤独の刻や一月尽  
浅香さとみ

加湿器の霧の広がり静ごころ

塩田豆子

初雪に靴あと残し色模様

飯田昭子

この所の気候の変動の大きさ、立春を過ぎたというのに急に真冬に  
逆戻り。そんな訳で二季の句や、季の異なるものが一句の中に入った  
り、でも、対比の美しさなど棄て難いので、皆採っています。

春が待ち遠しいです。

変化の大きい季節なので、来月の兼題は無し。自由に創ってもらう  
ことにしました。